

## 家を守る神様たち

アイヌ民族の家の内外には人々を見守るいろいろな神様がいらっしやいました。玄関の戸口で目を光らせて



佐賀 彩美 (さが あやみ)

アイヌ語地名研究会

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モンレー国際大学院(現ミドルベリー国際大学院モンレー校)通訳翻訳学科修士課程修了。全国通訳案内士。

排尿・排便することから「排出する」能力があるということで、トイレの板を裏返しにしてお産が軽くなるように祈ったという

ているのはアパサムンカムイ (apa-戸口 sam-の側に un-いる kamuy-神様) です。この男女の神様は、来訪者に魔物がついてくることがあるため、玄関先で見張っています。玄関先にはこの神様のための削りかけが、戸口を形どる左右の柱をその神に見立て、両方の壁に刺してあり、戸口に向って左側の太いほうがお男神、右側が女神のものです。アイヌ文化では両性具有の神様というのではないそうです。玄関側の鴨居(男神)と敷居(女神)にはまた別々の神様がいます。川上側の外庭は、ロッタミンタラウアンパカムイ (rotta-上手の mintar-庭を uanpa-掌握する kamuy-神様)が、川下側の外にはウサッタミンタラウアンパカムイ (usatta-下手の mintar-庭を uanpa-掌握する kamuy-神様) が守護しています。ミンタラというアイヌ語は日本語の「御手洗-みたらい」からきているという説もあります。御手洗は元々は神仏に参拝する前に手を清める場所です。また、ルコロカムイ (ru-道を kor-持つ kamuy-神様) はトイレへの道を担当しています。アイヌのトイレは家の川下側の少し離れた場所に作られていました。このル(道)はアシル (asin-出る ru-道) ともいわれます。大使用のトイレは穴を掘って板を渡した簡単なもので、入り口にはよしずがかけられていました。男性の小用には低い塀を「コ」の字型にまわし奥まった所に小穴を掘りその穴に小石を詰めてあります。夜間には内庭で、バケツのような取っ手がついた入れ物で用を足したり、生ごみ捨て場で用を足すことも許されていました。トイレは中身がいっぱいになると埋めてしまい、また別の場所に新たなトイレを作りました。難産の場合は、女性用トイレでは

ことです。「トイレの神様」という歌があったように、アイヌ文化でもトイレは重要な神様がいる場所でした。往昔は、トイレトーパーなどはありませんから、フキやイタドリなど大き目の葉っぱを採って天日で生乾きにして、しんなりしたものを木の枝にさしておいて使いました。また、枯れたイタドリの茎を細かく割って籠状にしたものをホヤイケケ (ho-お尻を yay-自分で ke-削る p-もの=尻な木) としてお尻をぬぐうのに使われていました。全てが自然に戻るので、誠にサステナブルといえます。また、便や尿は排泄物というだけではなく医療にも使われていました。マムシにかまれたときは患部にうんちをはりつけて熱を取ります。また高熱が出たときは肥溜めに身体ごと浸ける、またトイレの上水を飲ませたりもします。そんなことをして衛生的に大丈夫かとも思われますが、意外と効き目があったそうです。さらには魔物除けにも糞尿が使われました。魔物は人間よりも感覚が鋭いため、臭いにおいを嫌がるのだということです。こうなってくると人間の排泄物も大変重要な役割を果たしていたこととなります。アイヌ民族は本格的な農業はしていなかったのも、肥料に使ったということはあまりなかったようですが、日本では糞尿は肥料として売り物にされる商品でした。町の角々には肥溜めがあり、業者がお金を支払って糞尿を引き取っていたということです。排泄物も肥料として無駄にせず使い、育った野菜は食料として供給されるという方式は、究極の持続可能な社会といえますし、そのような仕組みは世界でも稀だったようです。



\*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として(一社)北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長  
アイヌ学全般(精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等)を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査(北海道教育委員会)に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する。主な著書:『アイヌの霊の世界』(小学館、1982年)、『アイヌ、神々と生きる人々』(福武書店、1985年)、『アイヌ学の夜明け』(梅原猛氏との共編、小学館、1990年)、『アイヌのごはん』(監修、デーリィマン社、2019年)、『平成20~令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1~14』(北海道教育委員会、2008~2023年)等。